

五月十八日（日）風薰る五月晴れのよき日に、静岡市ホテルアソシア静岡に於いて多数のご来賓のご臨席をいただき、会員百四十一人の参列の下に、静岡県珠算協会創立七十周年記念式典が挙行された。

午後三時会場のスクリーンに第一回全国珠算研究発表会、第一回静岡県そろばんの日、珠算会館の落成式、

三十周年記念式典、中華民国親善使節団との交流、五十周年記念式典、

静岡県での珠算研究集会などの七十年の歩みが写真で紹介され、参列者に大きな感銘を与えるなか、優雅な着物姿の澤田幸子先生の品格ある話術の司会進行で式典が開始された。

輝かしい歴史に寄与された物故会員の遺影が大画面に映し出され、黙祷

## 静岡県珠算協会創立七十周年 全珠連静岡県支部設立六十周年記念式典に参加して

北遠地区 宮崎 順孝



開式の辭を副会長の深沢好胖先生が行い、松村茂会長の式辞。

昭和十七年に十三名の先生方で発足し、昭和二十八年の全珠連誕生には、五一六名の全会員が加入、全珠連静岡県支部として発足した。一口に六十年、七十年とはいえ大変長い歴史であり、現在会員の半数以上が三十年以上の永年勤続者、まさにこの先生方が礎となり各地区的団結の強さと和を表し静珠協、全珠連の支



### 発行者

一般社団法人 静岡県珠算協会  
公益社団法人 全国珠算教育連盟静岡県支部  
(静岡市駿河区八幡2丁目)  
茂夫久村増松徳アール株式会社

発行人  
編集人  
印刷所



科学大臣のとき提唱した「読み、書き、そろばん、外遊び」についてお話をされ、小学校四年生の教科書へそろばんを復活させたこと、基礎学力を向上させるためには、伝統文化であるそろばんを小学生一年生から導入すべきと前向きのお話に期待したい。続いて公務のため到着が遅れた静岡市長の田辺信宏氏がなぞかけから「静岡市」とかけて、お気に入りの服ととく」その心は「またきてみたくなる」と静岡市來訪の感謝を述べ、百歳の日野原先生との出会いより前向きに生きるを感じたこと、今まで生きてきた人生よりこれから的人生のほうが良い、珠算界も今までの七十年

事川勝平太氏の祝辞を県文化学術局長の後藤淳氏が代読された。小学校への副教材の寄贈、ボランティア授業への感謝が伝えられ県が奨励している有徳の人づくり、多種多様な人材の育成に珠算事業が寄与されることへの感謝が述べられた。引き続き静岡市教育長高木雅宏氏は、そろばん教育は数字の世界に入り込む大きな力になっている。継続は力なり、と述べられた。続いて全珠連権川眞秀理事長は、全珠連設立にかかる静岡県の先生方のご努力が全国の珠算事業を引っ張ってきたこと、全国に先駆けて「そろばんの日」を

造ったことなど連盟の発展に静岡県が寄与する所が大きくなり感謝している。そろばんは基礎教育に必

えとなり、方向性を導いていただいたと考えています。七十一年目からも全員一丸となって前向きにいつそうの珠算の普及発展に取り組みたいと決意が述べられ、関係各位に心から感謝を申し上げ式辞とされた。

ご来賓のご祝辞に移り、静岡県知事川勝平太氏の祝辞を県文化学術局長の後藤淳氏が代読された。



らざるものであることが述べられた。引き続き衆議院議員の塩谷立氏は、文部科学大臣のとき提唱した「読み、書き、そろばん、外遊び」についてお話をされ、小学校四年生の教科書へそろばんを復活させたこと、基礎学力を向上させるためには、伝統文化であるそろばんを小学生一年生から導入すべきと前向きのお話に期待したい。続いて公務のため到着が遅れた静岡市長の田辺信宏氏がなぞかけから「静岡市」とかけて、お気に入りの服ととく」その心は「またきてみたくなる」と静岡市來訪の感謝を述べ、百歳の日野原先生との出会いより前向きに生きるを感じたこと、今まで生きてきた人生よりこれから的人生のほうが良い、珠算界も今までの七十年





田文子先生  
以下十名の  
先生が、特  
別表彰で全  
国の競技大  
会で活躍さ  
れている西  
尾貞子氏、  
大杉麻実氏

以上で渡邊富久子先生を含め十名の先生に、五十年以上は清水晃先生以下二十二名に、四十年以上では加藤尚三先生以下二十九名が表彰された。また全珠連創立時会員功労で霜先生方に、永年勤続表彰では六十年

引き続き感謝状の贈呈に移り、佐藤出版株式会社をはじめ十二の団体に感謝状が贈られた。次に特別功労表彰では竹内史郎先生はじめ五名の先生方に、永年勤続表彰では六十年

以上で渡邊富久子先生を含め十名の先生に、五十年以上は清水晃先生以下二十二名に、四十年以上では加藤尚三先生以下二十九名が表彰された。また祝宴のほうでいただけということで、ご来賓全員の紹介が行われた。続いて祝電の披露があり、珠算協会顧問の天野一県議会議員の祝電等が紹介された。

引き続き感謝状の贈呈に移り、佐藤出版株式会社をはじめ十二の団体に感謝状が贈られた。次に特別功労表彰では竹内史郎先生はじめ五名の先生方に、永年勤続表彰では六十年

以上で渡邊富久子先生を含め十名の先生に、五十年以上は清水晃先生以下二十二名に、四十年以上では加藤尚三先生以下二十九名が表彰された。また全珠連創立時会員功労で霜先生方に、永年勤続表彰では六十年

了した。

式典終了後直ちに特別表彰の西尾さん、大杉さんによるフラッシュ暗算のデモンストレーションが、渡辺尚明競技部長の司会の下行われ、二人の暗算力のすばらしさに唯々感動し、正解の度に感嘆、惜しみない拍手が送られた。

いろいろな役をいただき、先輩たちのご指導のおかげで自分の大きな力になった。生徒を前にして毎日働くことで毎日が青春、感謝していますと述べられた。その後声高らかに全珠連歌が齊唱され栗田昭男副会長が閉式の辞を述べられ、式典は終了した。



西尾 貞子 大杉 麻実

先生から、世界的に有名なフラワーアーティストの村松文彦氏が紹介され、数々のデザインフラワーショーなども手がけられ、先日まで浜松市で開催されていた花博のプロデュースもされた村松氏が壇上の大きな花器に音楽に載せて祝花を生けられた。県議会議員中澤通訓氏の乾杯の音頭で祝宴が開始された。衆議院議員大口善徳氏、静岡市議会議長石上顕太郎氏からご祝辞をいただいた。祝宴では渡邊富久子先生、山本志津子先生による手品の披露もあり、拍手喝采を浴びた。また坂下由秀乃社

が表彰された。引き続き受賞者を代表して渡邊富久子先生から謝辞が述べられ、いろ



中三名によるお琴の祝奏が、和やかな中にも優しい音色を奏で楽しい祝宴となつた。フラワー・アレンジメントをされた村松氏より花束の寄贈があり、各テーブルの代表によるじやんけん大会が行われ、六名に花束が贈呈された。最後に杉山忠郎本部理事による一本締めが行われ終宴となつた。

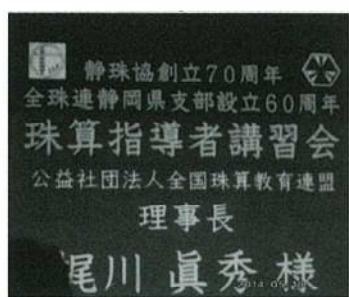
かくして式典ならびに祝宴は盛会裏に無事終了、多大な感銘を与えた。特筆すべきは来賓の方々の出席の多さ、松村会長始め執行部の先生方の人とのつながりが感じられ、歴史と伝統に培われた未来へ向けての意気込みが感じさせられた。

かくして式典ならびに祝宴は盛会裏に無事終了、多大な感銘を与えた。特筆すべきは来賓の方々の出席の多さ、松村会長始め執行部の先生方の人とのつながりが感じられ、歴史と伝統に培われた未来へ向けての意気込みが感じさせられた。実行委員の先生方の半年以上にわたる企画、準備のご苦労と実行力に感謝する次第です。珠算界の更なる発展を祈りつつ、式典参列記としま



## 『全珠連・過去から未来へ』 を聴講して

中遠地区 高梨 和司



五月十八日、私が全珠連の会員となつてから三回目の指導者講習会に参加させていただきました。当日は、静珠協創立七十周年・全珠算静岡県支部設立六十周年を祝福するかのような清々しい晴天に恵まれ、屋内イベントをするにはもつたいないほど。五歳と二歳の子供たちをつれてどこかに遊びにいきたいという衝動にかられつつ、会場であるホテルアソシア静岡に入りました。

さて、今年度の指導者講習会のテーマは「全珠連・過去から未来へ」。講師は全珠連・梶川真秀理事長といふことで、講演開始前の会場にはちよつ

と静珠協創立七十周年・全珠算静岡県支部設立六十周年を祝福するかのような清々しい晴天に恵まれ、屋内イベントをするにはもつたいないほど。五歳と二歳の子供たちをつれてどこかに遊びにいきたいという衝動にかられつつ、会場であるホテルアソシア静岡に入りました。

講演は梶川理事長の自己紹介からスタート。いつもながらユーモアを交えた理事長の軽妙な話術によつて会場の緊張感も幾分やわらぎ、よいよ本題の開始です。

とした緊張感が漂つているように感じられました。組織のトップの考え方を直接聴くことができるチャンスは滅多にありません。私自身も緊張感を保ちつつ、貴重なお話をひとつでも聴き漏らすことがないよう、集中してこの講演の時間を過ごさせていただきました。

### 【検定試験制度の歴史】

一〇一四年五月時点で第三六一回という回数を積み重ねてある検定試験。検定試験開始の挨拶をすると、この数字の大きさに子供たちは一様に「えっ?」というような表情をします。

この三六一という数字の裏側、すなわち検定試験制度の歴史ですが、

現在に至るまでにこれほどまでにその内容が改定されてきたということに、これまた驚きでした。

現在でも全珠連検定は珠算段位が七種目あり他団体の試験と比較してからわずか六ヶ月という短い期間でこのような全国組織が立ち上がりたのはすばらしいとのこと。現在行なわれている研究集会、検定試験、競技大会、あるいは広報誌等の発行が多いのですが、検定試験開始当時の段位はなんと十種目もあったというのです。当時から現在までの試験問題を一通り見てみたいという好奇心に駆られました。(どなたかお持ちの先生、いらっしゃいますでしょうか)

### 【主要事業の歴史】

念である「自主独立」。珠算人の自立と珠算に関する事業を名実ともに珠算人の手によって行うという主導権を、これからもしっかりと受け継いでいかねばならないと強く感じました。

昭和五十年代、私が小学生の頃には算数の教科書には「そろばん」が採り上げられており、そろばんが教科書に掲載されていることは当たり前のことと思つていました。

ところが、その実現までの過程は「義務教育における珠算教育強化促進全国総決起大会」なるデモなどを通じ、多くの先生方の努力があつたということを知りました。本当に頭が下がる思いです。

現在、珠算連合三団体を通じて、文部科学大臣を表敬訪問するなど、そろばんを小学校二年生の教科書に入れてもらえるように積極的に活動されているとのことです。ただ、英語教育の義務教科化など、小学校の授業時間の制約が厳しくなつていく中で、そろばんが生き残つていくのは大変なことで、相当努力をしていかなければならぬともおつしやつていました。

そろばん学習者の低年齢化が進む中、そろばんが小学校二年生の教科書に採用されることは珠算界にとってまさに画期的なことで大きな夢で

す。私自身、直接力にはなれませんが、実現されることを大いに期待しております。

### 〈現状〉

全珠連の重点施策として、次の六点が挙げられました。

(一) 珠算検定試験受験者の増加を図るため積極的な対策の推進

(二) 若年層会員の入会対策を推進

し組織の安定を図る

(三) 小学校教育支援事業をより積極的に推進する

(四) 公益法人の維持

(五) 東日本大震災被災地域の東北三県に対する支援

(六) 次期小学校指導要領改定に向

いように感じています。

珠算検定合格を目指すことで得られるものは大きいですが、さらに高校・大学進学においても実益があるというメリットを打ち出すことができれば、受験者数増につなげられるのではと思います。そのためには珠

算教育の効果、検定合格者が保有する高い学習能力について説明するなど、学校教育機関への強いアピールが必要です。

また(二)については、中長期的に珠算塾経営の基盤が確立できるようPRを含めた教場対策事業を考えていきたいということでした。

私自身はこの三月に会社を退職し、そろばん教室事業としたので、収入面においてまだまだ不安の中になります。今の時代に新規にそろばん

の先生になる、教室をはじめるといふのはとても勇気が要ることだと思っています。(私の場合は妻の理解があつたので、できたと思っています)

この中で(一)と(二)について、私の懇意と期待を書かせていただきたいと思います。

まず(一)については、ひとつの案として、学校教育機関との連携が有効ではないかと考えています。

たとえば、公益財団法人である日本英語検定協会が実施する「英検」は、高校や大学において入試優遇や単位認定があります。珠算検定も同様の優遇がある学校もあるようです。が、それほどまでに浸透はしていな

きればよいなと思っています。特に

前者について、何らかの具体的取り組みを期待するとともに、私自身も会員勧誘活動に積極的に取り組んでいきたいと考えております。

### 【これから全珠連】

梶川理事長は、公益社団法人として認可されたのはまだ出発点で、これをしっかりと維持していくことが

大事で、かつ難しいことであるとおっしゃっていました。また、公益ではあるものの会員のメリットも大事であるし、検定試験改革が必要であるとも話されていました。組織と

してこれから取り組んでいかなければならぬ直近の課題が提示された形です。

ところで「百年企業」という言葉をご存知でしょうか。これは起業から百年以上経過した長寿企業のことをしています。帝国バンクの調べによりますと、百年企業の排出率(長寿起業数 ÷ 全企業数)の都道府県別のトップは京都府、その排出率は4%だそうです。全国平均が一・八%です。これに加えて、具体案とまでは言えませんが、全珠連会員になれば安心して教室を始められる、また指導・経営全般に関してもいつでも相談できるといったような環境がで

なくもなさそうです。

この百年組織の実現のために、全珠連の組織の基本理念である「自立・主導」を堅持し、これまでに先達の先生方が築き上げた歴史を大切にする。また、時代時代にマッチしたスピーディーな取り組みの実行といい意味での組織の新陳代謝が必要であると梶川理事長のお話を聴きました。がら、私なりに感じ取ることができました。

まずは直近のひとつひとつ課題に対し具体的なアクションをしっかりと考えていく、そのような会員を目指していきたいと思います。

三十年後は静珠協創立百周年、そして四十年後は全珠連創立百周年です。まだまだ先の話のようにも思えますが、きっとあつという間です。その日を笑顔で迎えられますようにこれからも精進して参ります。そのためには不本意ながら(?)お酒の管理も必要かもしれません。

今後とも、先生方には色々とご迷惑をおかけするかもしだせんが、叱咤激励のほどどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 小学校そろばん指導・ボランティアについて

研修部 德増 久夫

これまで静岡県に於いて小学校でのそろばん指導については、東部の伊東・三島など数か所で行われているとの事でした。本年一月十九日に開催された研修部会の午後の議題に採り上げられ各部員の意見を聞いたところ、清水でも毎年実施されていますと発言がありました。詳細は地区長に聞いてから回答しますとの事で当日は終了。

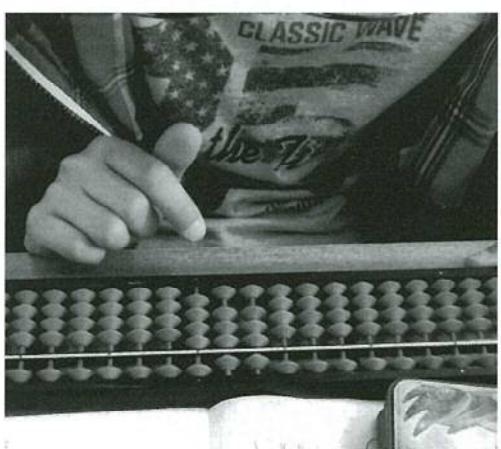
二月十一日の教材・教具研究会当日、清水地区長の望月先生・澤田先生と会談して見学希望を申し出る。見学については該当する小学校長の許可が必要との事であり、窓口となっている澤田先生に一任しました。後日、深澤先生を通して船越小は校長先生の珠算に対する深い理解があり、三年生四クラスそれぞれ三時間の時間を充當して頂くとの事。見学する日時は、二日目に該当する三月七日(金)の三時間目と四時間目に決定。深澤先生の地元の学区であり、一緒に見学する事になりました。



号ではスズキの湖西工場へ向かう西行き車両が渋滞中、東行きはスムーズに走行。何とか予定の上り電車に乗車し浜松駅で興津行きに乗り換え、草薙駅へ向かい定刻に到着。草薙駅からはタクシーを利用し約十分の乗車、船越小では深澤先生が正門の外で待っていてくださり恐縮しました。

二時間目が終了したので玄関に向かい授業を終えた望月先生・澤田先生と合流して職員室を訪れ、教頭先生と挨拶を交わしたのち、三時間目の授業をするクラスに向かう。三時間目のクラスでは二十九人の生徒が待機中、当番の挨拶、クラス担任の

2と〇・3と〇・4と〇になることを繰り返し説明して生徒の理解を求める。ここからが珠算の分野となり、澤田先生の指導にも熱が入ってきます。4に3がたせないためどうするのか、そろばんには5珠があるのかどうか、そろばんには5珠があるのかどうかなどと、泽田先生は丁寧に説明します。3をたす。3をたすはずなのに5をたす。3をたすはずなのに5をたしたまではいけないため、多く



たした2をとる(引く)と計算が終了。正解は7となる。澤田先生が読み上げ算で何回も4+3、3+2のような問題を唱えるが、3は5たして3を引く、2は5たして2を引く場合が見受けられる。はじめに3と3では5にならない、2と2でも5にならないことを注意してもやはり間違ってしまう。これは私の教室でも頻繁にみられる光景です。この後何問かを練習する。私がさつと見渡した感じでは、このクラスでは半数以上の生徒が理解できたと判断しました。授業の終わりに生徒に目を閉じて、「そろばん式暗算」を何問か読み上げて三時間目の授業を終了。

四時間目は別のクラスに移動、このクラスは三十人が在席。先のクラスと同じように授業を進めて行く

三月七日当日、マイカーで舞阪駅に向かうが出勤時間帯のラッシュであり、浜名湖大橋の途中、中の島信

教材は珠算連合発行の「たのしいそろばん三年・四年」。まずは昨日の復習を約十五分、続いて今日の授業は五をつくる問題の説明に入る。4+3の問題では生徒たちは即座に7と正答を答える。そろばんではどのようにして計算をするのかと説明を始める前に、5になるには1と〇、2と〇・3と〇・4と〇になること

を繰り返し説明して生徒の理解を求める。ここからが珠算の分野となり、澤田先生の指導にも熱が入ってきます。4に3がたせないためどうするのか、そろばんには5珠があるのかどうかなどと、泽田先生は丁寧に説明します。3をたす。3をたすはずなのに5をたす。3をたすはずなのに5をたしたまではいけないため、多く

が、何人かの生徒がよく理解できていないうです。補助に来ていた別の教師の方から、前方の席の生徒を指導願いますと要請され、教室内を移動し二、三人に説明。集中力を高めるには、読み上げ算のように耳が頼りでよそ見ができるのが効果的ではないかと感じました。澤田先生が授業の終わりに姿勢を正し目を閉じて「そろばん式暗算」を唱えるのがよくわかりました。私の教室では小学生と違い「随時制」のため一斉に「読み上げ暗算」等を探り入れておりません。これから「新入生」に対しても少しずつ採り入れようとの意を強く持ちました。

一日四時間の授業を受け持ち、三日間ボランティア指導に通われる二

人の先生、本当にありがとうございます。また、珠算指導に深いご理解を頂きました船越小の校長先生ならびに教職員のみなさん、ありがとうございました。

夏の句

只今と 声かけ覗く 冷蔵庫

帆を巻きし 漁夫の二の腕 炎天下

公園の ベンチで眠る 夏帽子

庸泰

## 梅ちゃん先生とそろばん、そして昭和の音

中遠地区 尾崎 潔

NHKで、平成二十四年の春から始まつた朝の連続テレビ小説「梅ちゃん先生」。その中でそろばんが使われたこと。そしてそれに関して全国珠算新聞第五百九十三号に太田敏幸先生の予告記事が載っていたことを覚えておられるだろうか。

朝の連ドラでそろばんが使われることはよくある。最近でもカーネーション、おひさままで使われているが、そこでのそろばんは軽い小道具程度で、それを使つてのメインの計算は、なかなか出てこない。梅ちゃんではどのように使われているだろうか。

### 『ドラマとそろばん』

梅ちゃん先生。舞台は東京蒲田。

終戦直後の昭和を背景にして、高度成長期の日本の発展とともに、主人公の下村梅子（堀北真希）が町医者となっていく物語。しかし、このお

話、梅子が医者になるまでは、コメディである。コメディーの主役は、梅子か、その父であり医者である建造（高橋克実）。二人とも医学の道を志す人にしては、その勘違い思ひが甚だしい。

「梅子、患者を不治の病と思いこむ事件」、「建造、やみ米は食べないと家庭内ストライキ事件」など、事件が続いている。

まわりの人たちもそれに巻き込まれていく。「どうしよう」が口癖の梅子が、その「どうしよう」を口にするとたび、周りの人もそれを放つておけなくなる。しかし週の終わりには、その勘違いの出来事は、無事解決となり、めでたしめでたしとなる。そこで梅子たちが一つ成長するという繰り返しのドラマ。一週間で、そのことで梅子たちが一つ成長する。そこでのそろばんは軽い小道具程度のエピソードが物語全体の伏線にもなっている。梅子の周りは善意の人ばかりなので、事件が起こっても安心して見ていられる喜劇。それが「梅ちゃん先生」である。

だが、そろばんをするのは梅子ではない。いつも騒ぎに巻き込まれてしまうが、頭のいいしっかりものの梅子の姉の松子（ミムラ）だ。

松子には軍医である婚約者がいた。名前にコンプレックスを持つ梅子には、梅の花は春一番、桜より先に咲いてみんなに希望を与える花」と言つてくれた人だ。その人は戦争で命を亡くし、でも松子はその姿を忘れないでいる。その姿や志を梅子に重ねたりもする。その面影に縛られ、

一步、前に行けない。ある意味、梅子よりも家族に守られていて、その居心地のよさに家事手伝いを続けている。それが松子だ。しかし、ある事をきっかけに、社会に出て行くこと、商社で働くこと、面接を受けることを決意する。

物語の中で、松子は商社を受けるための資格はタイプと簿記と言われる。そこで簿記の検定を受けるために、医学生である梅子と机を並べて、松子は勉強を始める。そして、そこに登場するのが「そろばん」である。「梅ちゃん先生」でそろばんが登場するシーンは限られている。しかし、すべて松子の上達がよく分かるカットが使われている。最初は簿記の計算の時のそろばんの使われ方だ（第十六話）。松子がそろばんの珠を弾くときのペンの持ち方が妙である。ペンを持って書く角度をそのままにして、すこしだけペンを中指側にずらして、親指と人差し指で珠を弾く。

そろばん素人である。弾き辛そうなのが一目で分かる。それが無事商社に就職してからは、ペンを手のひらで握り、親指と人差し指で美しく正確に珠を弾く（第二十話）。さらに年数を重ねるとそろばんの姿にさえも年季が入る。使い込んでいる（第五十三話）。

松子は自信を持って商社で働き、その簿記の腕、タイプの腕で、自分の居場所をみつける。そしてもう一つの人生につなげる。「梅ちゃん先生」のもう一つのサイドストーリー。

### 『昭和の音』

この時代の会社では、タイプの音やそろばんの音が仕事音となる。

タイプの音。「麦秋」という映画がある。小津安二郎の作品。その中で昭和の女優 原節子がタイプを打つシーンがある。その美しい指の動き。たんたんという擬音。そのりズム。この部屋だけでなく、まわりの部屋からも聞こえるタイプの音の風景。昭和の職場での一シーン。銀行では、そのタイプの音にぱちぱちというそろばんの音が紛れ込むと聞く。これは昭和の音。騒音と、もしかすると紙一重のこの音。その音たちは、松子・紀子たち職業婦人の象徴であるアイテム、道具から発せられる。その音の背後に彼女たちの姿がみえる。

### 『今のは』

さて今の職場では、パソコン。そのキー操作が仕事音となる。タイプの印字を打つ操作は「かなキー」に。そろばんの計算の操作は「数字キー」

に。それらはすべてキーボードという板に集められている。タイプの音もそろばんの音も静かなキーボードの音に替えられる。

それは暗算とも似ている。パソコンの中にそろばんの機能が取り込まれるように、暗算の中にも当然そろばんの機能が違った形で集約される。そろばんの形、音、動きそれを併せて、一点に集める。しかも暗算は、そろばんと違った世界を持つ。さらに自由だ。

暗算は、用意始めの合図で水に飛び込むようだ。息を詰めて自分の呼吸を計つて、数字に当つていく。外から見ていて、聞こえてくるのはペンの音だけだ。暗算の音は個人個人の内側の音。やめの合図の後、一人一人そこの一点にたどり着いた時の音。一人一人深さが違う。さらに底は深い。暗算の深い静けさに外からみていても感動する。

## 八月・九月行事予定

### ◎八月三日(日)

第一回 正副支部長会  
第二回 執行部長会  
第一回 常任委員会  
第一回 理事会

### ◎八月八日(金)

そろばんの日

### ◎八月十二日(火)～十七日(日)

全日本珠算選手権大会 京都市  
珠算会館休館日

### ◎八月二十日(水)

第五十回 「静岡県そろばんの日」  
(静) 上期通常総会

### ◎八月三十一日(日)

清水マリナート

### (全) 通常総会

第一回 全珠連競技部会  
第一回 静珠協検定競技部会

### 第三百六十二回

暗算1～8級検定  
静珠協珠算検定

### ◎九月二十四日(水)

全珠連創立記念日

### ◎九月二十八日(日)

第三百六十三回 全珠連珠算検定  
暗算段位検定

## 第361回 全珠連【珠算】検定試験受験者数報告書

○囲みの数字は受験料免除者 段位～15級：平成26年5月25日施行

地 区	段 位	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	7 級	8 級	9 級	10 級	11 級	12 級	13 級	14 級	15 級	合 計	前年同期
賀 茂	0	2	6	3	1	1	0	1	0	2	1	1	2	2	1	4	27	27
東 豆	13	9	14	25	5	5	11	9	7	0	2	0	0	0	0	0	100	125
三 島	7	6	9	32	4	8	7	8	3	4	3	4	0	1	0	1	97	126
沼 津	29	12	11	11	12	12	10	17	21	10	10	3	5	4	6	1	174	170
富 士	9	7	8	14	0	3	4	4	3	2	2	0	0	0	0	0	56	50
清 水	19	9	5	5	5	12	8	5	6	5	5	5	1	1	1	4	96	112
静 岡	34	11	① 42	42	27	28	21	13	① 13	13	8	3	0	1	0	3	② 259	286
志 太 樹 原	27	19	24	36	11	14	16	17	5	3	0	0	0	0	0	0	172	168
中 遠	28	32	28	41	20	9	8	5	3	3	0	0	0	0	0	0	180	171
北 遠	29	26	33	51	22	26	21	6	11	7	2	0	0	0	0	0	234	200
中部合計	195	133	① 180	260	107	118	106	85	① 72	49	36	16	8	9	8	13	② 1,395	1,435
浜 松	106	① 77	74	① 93	⑤ 22	④ 26	⑦ 13	② 14	⑤ 20	③	⑤ 1	0	0	0	0	0	③ 446	477
総合計	301	① 210	① 254	① 353	⑤ 129	④ 144	⑦ 119	② 99	⑥ 92	③ 49	⑤ 37	16	8	9	8	13	⑤ 1,841	1,912
前年同期	280	225	② 308	③ 313	165	⑤ 160	③ 168	⑦ 99	④ 67	② 53	④ 37	12	6	7	7	5	③ 1,912	

